

岩手県金融経済概況（2021年1月）

1. 概況

県内経済は、引き続き厳しい状態にあるが、全体としてみれば持ち直し基調にある。ただし、このところ、サービス業を中心に新型コロナウイルス感染症の影響の厳しさを指摘する声が増えている。

最終需要の動きをみると、公共投資は、緩やかに増加している一方、設備投資は弱めの動きとなっている。個人消費は、財消費が総じてみれば堅調である一方、サービス消費は厳しさを増している。住宅投資は、減少している。

生産は、持ち直している。雇用・所得環境は、弱い動きが続いている。消費者物価（除く生鮮食品）は、前年を下回っている。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、財消費が総じてみれば堅調である一方、サービス消費は厳しさを増している。

百貨店売上高（全店舗ベース；2020年12月）は、2ヵ月連続で前年を下回った（前年比△7.7%）。

スーパー売上高（全店舗ベース；2020年12月）は、3ヵ月振りに前年を下回った（前年比△1.5%）。

新車登録・届出台数（乗用車＜含む軽＞；2021年1月）は、4ヵ月連続で前年を上回った（前年比+10.8%）。

この間、サービス消費は、新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響などから、飲食・宿泊を中心に、厳しさを増している。

(2) 建設投資（公共投資、住宅投資、設備投資）

公共工事請負金額（2021年1月）は、2ヵ月振りに前年を上回った（前年比+8.9%）。

新設住宅着工戸数（2020年12月）は、8ヵ月連続で前年を下回った（前年比△36.7%）。

—— 持家（前年比△15.2%）は2ヵ月振りに前年を下回った。貸家（同△61.5%）は4ヵ月連続で前年を下回った。分譲（同△36.5%）は5ヵ月連続で前年を下回った。

民間設備投資（2020年12月短観ベース；2020年度計画）は、前年を下回る計画（前年比△26.8%）となっている。

—— 製造業（前年比△24.5%）、非製造業（同△29.5%）とも、コロナ禍による収益悪化を背景として、不要不急の投資を先送りする先がみられたことから、前回調査（9月短観）比減少幅が拡大する計画となっている。

県内の官民建設工事全体の出来高総計（2020年12月）は、18ヵ月連続で前年を下回った（前年比△7.5%）。

3. 生産動向

生産は、持ち直している。

鉱工業生産指数（季節調整値；2020年11月）は、4ヵ月振りに前月を下回った（前月比△3.9%）。

—— 主な業種の動きをみると、電子部品・デバイス、はん用機械、業務用機械が上昇した一方、生産用機械、輸送機械、食料品が低下した。

なお、四半期の動きをみると、2020/7～9月は3期振りに前期を上回った（2019/10～12月：前期比+2.1%、2020/1～3月：同△5.9%、4～6月：同△10.7%、7～9月：同+1.2%）。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境は、弱い動きが続いている。

有効求人倍率（季節調整値；2020年12月）は、1.06倍と前月を上回った（2020年11月は1.02倍）。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査；2020年12月）は、12ヵ月連続で前年を下回った（前年比△0.9%）。

雇用者所得（県内合計値；2020年11月）は、常用雇用指数（前年比+0.8%）が前年を上回ったものの、名目賃金指数（同△2.9%）が前年を下回ったことか

ら、5ヵ月連続で前年を下回った（同△2.0%）。

5. 物価

消費者物価指数（除く生鮮食品；2021年1月）は、7ヵ月連続で前年を下回った（前年比△0.3%）。

内訳をみると、被服及び履物、住居、諸雑費が上昇した一方、光熱・水道、交通・通信などが下落した。

6. 企業倒産

企業倒産（2021年1月）は、皆無となった（前年同月；3件、56百万円）。

7. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金・貸出（2020年12月）については、預金、貸出とも前年を上回った。貸出約定平均金利（2020年12月）は前月に比べて低下した。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代）
ホームページアドレス <https://www3.boj.or.jp/morioka/>

<ホームページ>

